

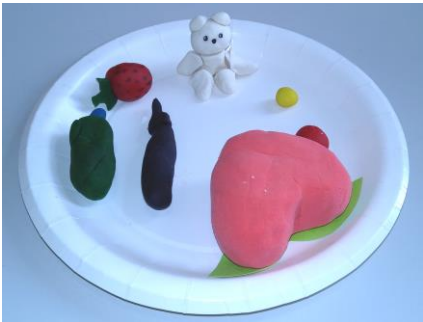


## ○ねんど

何年か前のこと、教材カタログに「土粘土」という表現を見つけたとき、私は少しばかりの違和感を持ちました。「粘土だから土でしょう。」と思ったわけですね。しかし次の瞬間その違和感の間違いだと気づきました。粘土にはさまざまな種類があります。油粘土、紙粘土、小麦粉粘土…、そして土粘土ですね。土粘土は窯で焼成すれば陶磁器になり、食卓を美しく飾る器として私たちの生活を豊かにしてくれます。焼き物と言えば、今月からNHKの朝の連続ドラマが新しく始まりました。「スカーレット」という題名で焼き物を作る主人公の話です。“菊練り”という作業が登場しますが、私も経験したことがあります。

さて、子どもたちは粘土遊びが大好きですね。私には2歳と3歳の孫がいますが、この夏に帰省してきたとき、毎晩粘土遊びをせがまれました。毎日ほぼ同じ作業をするのですが、飽きるということがありません。2歳ぐらいでは“作品”を制作するという意識はないようです。握ることを楽しむ。ちぎることを楽しむ。つぶすことを楽しむ。切ることを楽しみます。何回も何回も感触を確かめているように思えます。その触覚を駆使することによりたくさんの学びをしているのでしょう。

授業ではそのような話もよく挿入します。NHKドラマのことも引用しようと思いましたが、学生たちは通学時間帯なのであまり見ないようです。話がつながりませんでした。



○自校自賛 ..... ↑ 質感を表現する目的でつくりました。楽しくご鑑賞ください。